



水泳・小野選手 2大会連続パラ日本代表

メダル挑戦 十勝がエール

悔い残さないで ■ 後輩の励み

帯広盲学校出身で水泳女子の小野智華子選手(21)が、2大会連続のパラリンピック代表を決め、両親や地元関係者は喜びに沸いている。9月のリオデジネイロ大会で4種目の出場が決まり、小野さんは前回8位だった100m背泳ぎでのメダル獲得に意欲を見せる。健闘を祈る声とともに期待も高まっている。(松村智裕)

小野選手は今春、社会人となり、人事部で勤務。会社の理解を得て、練習時間を十分に確保し準備を進めている。現在は母の薙さん(49)が都内で1人暮らしの小野選手を支え、食事面などを管理している。小野選手を支え、食事面などを管理している。現在は母の薙さん(49)が都内で1人暮らしの小野選手を支え、食事面などを管理している。現在は母の薙さん(49)が都内で1人暮らしの小野選手を支え、食事面などを管理している。現在は母の薙さん(49)が都内で1人暮らしの小野選手を支え、食事面などを管理している。現在は母の薙さん(49)が都内で1人暮らしの小野選手を支え、食事面などを管理している。

小野選手は「既に努力しているので厳しい言葉かもしれないが、悔いを残さないよう頑張ってほしい」と猛練習に励むまな娘にエールを送る。

母校の帯広盲学校も朗報に沸く。川上和弘教頭は「ロンドン大会に引き続いでの見せた小野選手(今年3月)

出場は、小野さんの努力もさることながら、お父さん、お母さんをはじめ関係する方々の支えがあったからこそ」とたたえ、「このうれしいニュースを帯広盲学校の後輩たちに伝え、一緒に応援したい」とレースを待ちわびる。2012年のロンドン大会出場は、十勝の水泳界に大きな刺激となつた。帯広小柴会長は「智華子ちゃんのようになりたいと、頑張つている子どもたちがたくさんいる。力を出し切っている。今回も上位に入ってくれば、そうした選手のさらなる励みになる」と活躍を期待している。



ロンドン・パラリンピック水泳で入賞、帯広市特別表彰を受け、関係者に祝福される小野選手(2012年11月17日)